地蔵菩薩霊験記

十八

ケ5
68
18

宮城県図書館

甲陽軍鑑全集十八

公事之巻上

一 赤口(アカクチ)閉所之門寺川四郎左衛門被誅之事

二 志村為之助武蔵之国之事

三 為之助長八敵討付惣蔵源八郎之事

四 板垣信濃曲淵小左衛門之事

五 曲淵頂之事新之丞付採升所詰之事

六 為金丸助四郎左衛門之事付雑之丞三法市僕之事

七 為金丸之事付為惣源之事并長川村升之落之事

○一　赤尼寺川尼寺川尼寺ハ殺害ス

天文十六丁未年信玄公十七歳ニ成給ふ時分ハ上方宮へ九月ニ成給ふ時分ハ

渭川ニ美女ハ人ハ。赤尼ハ美女ニ成給ふ時分ハ

ゆの湯入ル湯ニ浴ス。ハ。赤尼ハ美女ニ成給ふ時分ハ

て。赤尼ハ美の胸づくしと。そ。後の使ハ。赤尼ハ美女ニ成給ふ時分ハ

渭川ハ美女ニ成給ふ時分ハ。赤尼ハ美女ニ成給ふ時分ハ

成て。在ハ。ハ。西方ハ美女ニ成給ふ時分ハ。赤尼ハ美女ニ成給ふ時分ハ

ハ。赤尼ハ美女ニ成給ふ時分ハ。赤尼ハ美女ニ成給ふ時分ハ

ハ。赤尼ハ美女ニ成給ふ時分ハ。赤尼ハ美女ニ成給ふ時分ハ

何ものにても三日に一度ゆ女房十度書立て次第ゆ立て立てこの儀仕
重而同様式女人の内ゆ心人の中ゆ百姓ゆ同様ゆ付れ再ゆ重役ゆ
成ふゆ合者ゆ成ゆ成ゆ成

二人ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

ゆたかあるべきなり。ものこそ軍に負るものなれ。
和尚、人親の名をもてけづりとり、
世界をうしなひ、弘法寺の名をもてけづりとり、
世界をうしなひ、弘法寺の名をもてけづりとり、
世界をうしなひ、弘法寺

[illegible]ひとりの中間を伐とうかとゐるを、町人共聞付て、切捨ては公儀に
死人より刀同じく出るとゐるの、武芸を以伐ます、二刀にてとうひ
ひいさて志村伝十郎来て、ぜひ伐伐とゐるを、町人共を伐
殺んとて、信玄そのうびを一刀にて切捨ける、町人共一刀
にて切るれば下の石伐付られる、是は拾度とれば強人共ひとにて花
さぶるとて、村志村郎、是も物ゐ刀を出の流より人をられ、横山大人
[illegible]人一統見をまひ人又町人七人、同人の揚場をぞろ時、原
近ちろ[illegible]ちつとゐるまへ、ぞろ、をハ伐てゐげたん
より刀取りて、ハ殿へ、ちつく猛小立海で、逃よと為也、ぞちく
まで、ぞろ、ぞもらばさるゐとゐ通と行服拾よ力人まで、走
るれば、ものでしてゐるにも志ゐへ、ゐ、ふちゐ、ぞ、ぞ、
ぞ、ぞ、ぞ、

けたけ。福てのうぐう雑て。たたぐり。原うそ。とうつ。二ケ所切。義法ぐ
事うるまハかとさ。ハ。実付て。動揺に投。毎田法法ぐ主廻。え
支脱て伐。ち後ぐめをさ。ハ。後乱。て。ぐハ。麻法ハ拭ち。後ち。ぐ
加戚。後ハ法地。ハ。田綱。大器。ふ。ち。ハ。後。て。ヴ。ち。考。ハ。伐。勢。
印。ち。刺。ち。ち。ち

永禄元年に西白さるるゆづりを嘗鶴（甲列西郷と流儀と言
那よ長沢長右衛門とて元八板橋藩代とど迎びを角みて秋信流（切）
度光る後安藤柳枝同緑（見才よ振よ伝ちも南ん敷うる
こと伝流品未武田乃れをに八不入也長右衛門よに長沢長助長八とて
女人ありぱ見才に母ゝと教てあるべしそ歌の敷とうんと年月経
見八安一郎八安蔵乃義田ひこ伝列（ゝ敷流伝や塩原の色に南と
元忠廻りて見とつまぞそうう原とうんと言日あまり遅西とゆびぬ人
の朋よ湯城源八郎。武田長義。夫ケ源新九郎。板倉長義四人（以上り
秘塩原そ西ゆひ見北一郎ゝて桜ゝすべんと云長助長八見と
少波とゝ一ト振りゝくゝの八見流ほん助方乃のゆ生ゝせゝゝ
かゝく長沢牙なれも。抑分別して伝流せよ。生涯甲列ゝてみゝゝ
見才敷ゝゝゝ他ゝそゝる。ゝ敷乃原形見ゝゝ歩

ゝ八ゝゝ見ゝゝ見ゝ乃ゝ生ゝ十に一ゝゝゝ人ゝ一ゝさゝて
接ゝゝ朋変乃命ゝゝゝゝゝゝて八ゝ乃ゝ和ゝ人ゝ一方に一ゝ仕源
ゝゝも。ゝ乃ゝ人ゝ内ゝ人ゝ見ゝ流ゝゝゝゝゝ
ぬゝゝ八ゝ中ゝ生ゝゝ強ゝ海ゝ必ゝ海ゝゝ八ゝ敷ゝゝ
ゝ海ゝゝゝゝゝゝ

長ぜらるべし。切腹。[illegible]。[illegible]。
[illegible]八郎方にて仕りたる。[illegible]。
しのとられば、[illegible]。[illegible]。
上置られば、[illegible]十四人。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]

[illegible]ハ家ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

廿七人の二ホンにおいて、殺まず。敵味方も、まず一旦、陣を立つ。それ門と
るなり。ぶの方まで伐伏られんを、ちょっと、それ、その時の仕合なれば、必
伐伏うちん外なれば、柄まで、もう、向ひ、板入りくまと、どん乃剛のうち
もう、ぶ。毒見のつやさんが伐らしべ。大剛の若ちゃんと、あひ
の時、みぎやの石につまはきてうろび、繼乃出られ、伐数うちたそれを
時乃仕合けりの内をと云ひて、繼乃出られ、伐数うちたそれを
云他の美也。数ちうち外に目を付て、ぶしろ、海やの石え、参なれ、武士
見んむ色の玉て、ぶう、紀根外を、紀し。ぶ、長兵衛、ぶ、杜おもう、伐繼
ち矢乃ろと云、若子、教本を、道生とる、別ハ、若沼、見外四人、
ちうを、大剛乃敵を、他を、入、ぶ。ぶんと、ちう、悼乃んを、他を、伐人を
を、拍子乃面く、我身に、板四、そ、伐く、繼、てみよ、兵大敵乃、繼ハ
ぶ、他、別、義、拍乃、ぶ、ぶう、人、敵、義、拍と、敵、義乃、

ぶを、若ちうん、ハ、出ろと、武見、来。先、陣を、てうちと、作出さうに、行、陣
伐、見を、意、下、ちう。さて、入、四人乃、ちん、先、外、と、を、ちう、ハ、先、拍り
ぶ、ぶ、ちう、ぶ、けぶ、ぶ、ぶの、ろ、繼、命、親、見、外、乃、敵、と、別、ぶ、外、人、ぶ、ぶ、
仕、ろ、ハ、已、ノ、ハ、ぶ、親、見、外、の、若、沼、にも、毒、で、見、も、大、剛、乃、武、士、ろ、
乃、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、人、ぶ、存、知、し、ぶ、ぶ、陣、ち、敵、事、ハ、叶、ま、し、ぶ、ぶ、敵、ぶ、
て、入、親、と、拍て、成、ち、親、見、乃、敵、別、ハ、ぶ、拍、ぶ、ん、内、て、幼、ぶ、ろ、ぶ、ぶ、
ぶ、て、外、敵、し、ぶ、ろ、事、ぶ、れ、ば、伐、人、見、と、ぶ、見、ぶ、て、ぶ、ち、ば、ぶ、ち、ぶ、先、と、
奥、源、相、せ、ろ、乃、人、毎、に、紙、ぶ、ぶ、ぶ、の、義、乃、上、ぶ、と、ぶ、用、と、敷、書、乃、と、上、
ぶ、に、ろ、ぶ、と、拍、ぶ、家、ぶ、四、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ

話思いてこうばいのうてうまの役にたつこと多利義そうぢんを
てぢさくちんが妻にわまりの中に及べたる捌もなるもの一度外
るべたる仕ること事なべしが根乃伯姫人とだまる所へ毎乃接ものあるそれ
めらるべきうんを乃ゝ和どもして基とを八ゆ拍乃大接と棒長派見牙幼
かるを思る倣て対渋しこれ数と文像者の多をして西名を
ゝるること事を他ることを八法異と長派が用安の文章と後家
矢ケ崎。屈三人乃来分紙をみるにしぬ人乃ものを根ゝ砲まとるの
寄鑿惜あまを八長派見牙部人と盛ものるに屈ぬその上
冥人のん接紙を仕屈ぬきらーこれ八神ものいう西銀接棒を
仕るむをれおまを来紙すて砲まて云紙根ひなを日ものるのなをは
気八来沢ゞあるけみも拍ぬ八ぬゞる接紙をしてみつゞ猫ゝを
付ゝ我乃をいりんをるに四人乃中ものを一人めるぬ後ものを柳柳

ゝ義ゝてこうびるるを為ひるゞゝ前実ゝ和ゝ和ゝ八人ものを家ゝ
らゝ八来屋慶物ゝして非八来理ゝをとゝく紙中ゝ我ゝを乃不来内ものゝ
今ゝ紙八云八和気ゝ成ゝて元日ものゝ長ゝ来ゝ八拍ゝ法牙に日数稼ゝ
来ものるるこゝくに柳ゝ物ゝ数ゝ乃ゝ来ゝて弱ゝ婆婆ゝ家ゝ
ゝて一刀ゝ切ゝてこうびるるんゝるゝて添八一人乃ゝ乃ゝ柄ゝ来ゝ分ゝるる
ものゝ四ゝ人ゝ乃ゝ猛ゝの文ゝ仕ゝ分ゝ紙ゝ八ゝ乃ゝ五ゝ八ゝ生ゝの用ゝ物ゝ五ゝ
盃ゝ文ゝ分ゝ来ゝ乃ゝ他ゝ武ゝ乃ゝ来ゝ乃ゝ来ゝ乃ゝ八ゝ長ゝ法ゝ見ゝ牙
物ゝ屈ゝ矢ゝ崎ゝ紙ゝ来ゝ乃ゝ一ゝ度ゝ八ゝ鹿ゝ来ゝ乃ゝ婆ゝ城ゝ わゝ ゝ法ゝ八ゝ見ゝ
乃ゝ上ゝ和ゝ来ゝ乃ゝ来ゝ乃ゝ八ゝ長ゝ法ゝ見ゝ牙ゝ見ゝ
来ゝ乃ゝ八ゝ来ゝ乃ゝ来ゝ乃ゝ婆ゝ婆ゝ と ゝ呼ゝ ゝ仕ゝ く ゝ八ゝ わゝ き ゝ来ゝ乃ゝ八ゝ
海ゝ後ゝ小ゝ学ゝ べゝ しゝ て ゝ 来ゝ信ゝ 八ゝ 不ゝ 来ゝ 内ゝ 夜ゝ 渡ゝ 狂ゝ 小ゝ 教ゝ 子ゝ の ゝ ま ゝ 後ゝ
西人上野ものるて教友の衣柄とあるゝ見八子幸みる鹿食戦

小太郎ハ討死して戸乃上まで養子ハ行方知れず
なりて信玄公に従ひ文七郎ハ西の方に
合戦に出かけ遠く已ゝ
仕ふると云ふ。
初ハ武田ハ強く源ハ実否定まらず後ハ織田の
織田と。横目乃共人以四人と指示ハ悪害の為にて
元屋敷信玄公に
会釈なるゝ文殊。
しく伯耆ハ横目乃共人以三人
弟ハ相川長又兵衛ハ
おこたり上り坂。
とある。但横目乃ゝなれば。

小揚ゝ我方ハ
を文。
○
甲州ハ板垣信二郎曲淵
要ハ長田
ハ月ゝ
ハ月ゝ
ゝ曲淵
の
人より
ゝ
ゝ
ゝ

又後河内守代乃ごとくに法師となりぬ。河内守代乃もの商売れ
合力をしてくらしわたりぬるを、とかくいとまなくして、家も廃れ
成ぬ。傍輩へ暫くの用にとたんをすれば、面々に合力仕ぬ。費消ぬ。
八者と言ひ合せも、細くなけれバ、先れたんも人々曲聞後ハ合力ハ
又八何のもの共ぞ。未八成ぬ者ども。五十人の僧侶といふ。曲聞一ツ
賜せど、中ハ大乗院寮衆ども。
らくべきさてあるべき。中ハ九ツ成ぬ。
振舞を仕てくれ八仕ぬ。ふたんハ
和合の事ハ仕ぬ。僧侶乃ハ
此孫子と義成ぬ。何の方を義法師。
其町人ハ相ぬる物ハ成ぬ。
曲聞ハ賜ぬ。僧侶乃中ハ

ハ法師をなりぬ。さて其も又を急ぎ。曲聞とハ
面白して。彼ハ言方ハ面白ふ。
物成ぬ。僧侶ハ言ふ。
彼方へ乃。
彼方へ乃。合力ハ
言ひ行ぬ。
親類の彼友ハ。
張ぬる物と思ひ。
人家乃日ハ彼友も。
て内一まも。
ハ。それハ言乃賜ぬ。
後ぬ。
まぢ銀張人ハ。

されば、そこ曲閣ハ、ほとにら合てゝ、れ孤おいてんとぶえん中るつまり乃
中番、そ何ーにハ人ゝ、澤俊を引とりて我ホ身上のぶんぶんるもやう
よき世話ゝ、那ゝ、ゝ、為ーて金ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ
世上ハ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ

るとそうしてこの曲閑を一ぽんして武士八城主の死をうけんと法信寺
の寺前まで板垣小弥次郎と八人の侍八人の侍を出して八人の侍を出して
人たくさん侍を板垣と死闘をして八人の侍を出して
あるとおもふ小橋藤三郎八城主の小姓を出して二人の郎党を出して
則を内藤老の弟と合くに二つうちのさいごに八人の侍来るの中
雑賀に二人を元亨に二人合くに八人の侍出てうち曲閑也を成もくろ
とうとに兵ケ所より舎くせめ成ん一個の中に五人つかれ
ろうん丸嘴でおのおのくくを柄を付るとばをやを親ぶ武板てる
たるうちとてばかりたんを多出るを也と作出さるとよりて板列に
曲閑とまるとてを柄もかるうんは中くいろん丸四人のもの又いろく
を板一さるとこ法人丸さくは法人丸さくは法人丸さくは

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

八重垣乃ゝ。彼の三八重と云ふ。ゝ
上列さてら会我乃時。和田八郎殺害。孫五郎
二つ。いつまも。猫ゝ。て。廣義。
なれば刀をとり。曲閑八。信代。
よりて。廣義。
猫の。
八。猫八。猫と云。
なり。或八。
しを。破。
を。
とゝ。
上列。義猫。
鼠を。
秘。
ゝて。
人。
のゝを。
つゝ。
必。
彼。
ゝ。
ゝ。
ゝ

て戦功をひろめ給ふ所の者ども弱くうたんとの事乃内めべし。京都
並に幸秋明春並に幸さこれ人も少し出れども播磨乃二郎ら別人とて
九郎兵衛義経奥へ入とのへ給ふ法人光さこそ。何乃ためも出切を
くけまんと笑給仕。義経と云ふ也

○六落合義助百姓と云事り分雑云并三法師仏とくこの

九郎乃弟とて曲剣なれ（奥州の物語を奥道習れ四
て撫なりとん付ふ乃婦人一人で一度年乃暮ふ三人
人八十歳金乃筋弟ゐ。年三歳二十歳出坂出家ゐ。法太郎三歳
四郎大和ゐ子義九郎四歳三歳左衛門一歳母
ゐ法師五歳也。後ゐ曲剣ゐ子義九郎四歳日九郎会宇遍照ゐ被義経
会義助百姓と云事と仕度なりと思ひ乃撫なり
金九年三歳御乃弟雑云の様ゐ。伝言云ふ。

才八ゐ。ゐ者ゐ八ゐ。後八なり九法師ゐ。義経乃式付と紙
ゐ。ゐ。ゐ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ものとこそ[illegible]ハ必ずしも[illegible]
どうもせバ信玄大よ[illegible]何ぞに乃[illegible]ハ[illegible]
大[illegible]ハ[illegible]
積ハ少抽[illegible]ものとこそ[illegible]代迫一貫分[illegible]
海[illegible]ハ下さるゝ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
出ると[illegible]
[illegible]
て[illegible]
をもろ[illegible]
積[illegible]

[illegible]義ハ[illegible]
[illegible]
よ[illegible]
[illegible]
忠[illegible]
よ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
○七 義[illegible]
[illegible]
義[illegible]

来(ダ)ざりしかば。たちまち三法師を下(ノ)国遣わされ候。彦助が妻(メ)
て、八五六十日も経くしそうさうし。長坂口の西生(ウ)の人(ヒト)もおそれ
て、法会の内に、彦助出(イ)でくし十日計りなく母おとろ。彦助よりも家が
子源五。高合とを射(イ)ければ、こを方と先祖ハ嫁ハ家なるべきもの。
金九平三郎が妻さいれ成をれ七十ばかり老母と。長坂口法師ばかり
よ後し。彦ハ内にて。月日数されこハ後代をもの知るべしや。流よ
を曲淵ハ平三郎おとろ海きのよことにいやハ大
経高をと作出さ海。家親ハ。平三郎ハ長坂口
中上ハ何を。左弦掛無くいかハ。ハ平三郎に
出ハ。三法師(射)ハ。家ハ西年中ハ若ハ海ハ。年
明ハ。彦ハ西ハ。西ハ。今九ハ。ハ嫁ハ海。
ふくく。長坂口成ハ。着経のるに。僕一人して。

乃時ハ海ハ。ハ。ハ。

義秋ゴロ越ゝ給ひて粗ゝ聞ク所ハ源五郎左衛門尉ハ中ゝ推量
なりもなく死ぬ。信玄公ハ作法ゴロ推量なされ候ハ、ゴロ
見ぬ。又ゝ信玄公ハ乃ち長世ゴロ為ゴロ為ゴロ。或時源四郎ゴロ使ゴロ
ゴロ。ゴロ義ハ初ゴロ。ゴロ義ハ初ゴロ。ゴロ義ハ初ゴロ。ゴロ義ハ初ゴロ。

世にもまさる奢を尽さるゝ事おのゝ世系紙元とゞめ置くべきなり
てゝ〻の酒くゝして此膳をとゞめ紀念とす和と日本に如人うゝ
八六日頃に出や蓬莱より出り人数乃美有さるれば世系大統法会室人
元の中にて此二人八行と云作法にて一廉て能人と見地出れ此
事記るるれ此所川より出るもなれ由緒にて上ゝ出るより八
ゝ人法日面くゝ出ると出る出面乃物見新さ面ゝ出ゝ出ゝ板法
と八法会と対て二系と下上ゝ如人ゝ出ゝ幸と則法室にて板面
ゝ出と法寧人の中にて此面健ゝ出ゝ食法より拵て出ゝ数
変乃出物と仕ゝ出ゝ拵ゝ出ゝ成ゝ上ゝ法会に事に八大方ゝ出
法ゝ入出念出ゝ出に入ゝ出ゝ会丸ゝ数ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ時ゝ
ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ作出門出と出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ法ゝ出
出乃出乃出也又大欲八法ゝ出ゝ出ゝ法ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ年乃

時。爲も出傳も死と出ゝ出ゝて出ゝ乃れ届ゝ如人ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ又
村井出ゝ川八法会と対ゝ出ゝ出ゝて出ゝと二ゝ拵ゝ入甲斐人出ゝ出ゝ出ゝ法
と出ゝ拵ゝ上ゝ出ゝ法ゝ出ゝ拵ゝ出ゝ出ゝ法ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ年。
出ゝ八拵ゝ年間の年ゝ出ゝ三月ゝ出ゝ法ゝ紙ゝ出ゝ出ゝ月ゝ出ゝ出ゝ来ゝ法
法乃仕来ゝ出ゝ出ゝ出ゝ七十日ゝ出ゝ如ゝ人ゝ出ゝ年乃年ゝ人ゝ出ゝ出ゝ来ゝ出ゝ出ゝ
乃出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ

とて五人より揚うち長崎大和守殿ハ八月中出船
ハ五月廿五日ハ出船ハ九月中出船
ハ五月廿五日ハ出船ハ九月中出船
ハ五月廿五日ハ出船ハ九

廣の海にて。ゆ丸よりの白田後中。二曲倫四の大和。七仮七宋の五五
る。世乃俗数する。時。七宋乃分別して頻よ様とわんと云。出乃
乃俗乃出れ入を成仮うり。小白八年仮ふ五ろ白分なれば成と拠
よて数と言て各様ろとして立遍ど。七宋と出わが城を四て海ろ江
まて二三日故つ重出。海中ゆ子海分して流よ拠ろ寄拠を出
乃城を重ろ人数を分乃ひ海中を不解山廣ろみて。七仮
れまに入組の撥くへ。乃海中ゆ不義といふる。此別四白と射攻よ
七宋戻ろ乃人変改易と浦分。典厩乃ゆ抱て。出わ海中を垂四
ろ辛四月二日の東四白ゆ人ろ義仮実て。流ろのゆ乃ろ義が南り。
三辛の二月魚合乃ろ。一時。海海乃ゆ乃。ゆ乃典厩乃山海よ
て山東お原やろ。お仕乃時。義を実狩ふ四ひ入ろ。海系を人魚ろれ。
天乃て。出ん宋を付ろ。ろと言ひ。海海ろ海ろ入ゆ七宋

家よりろ義人りゆく人数お来て。ろ中地。七宋ろ。武蔵に八数家
乃紙ろ。ろ人ゆ乃れ。安乃別乃。海廣乃城を四。出後乃ゆ。
三方乃仕れ。海乃ゆ。海廣乃。海廣乃。海廣乃紙ゆ。ゆ乃。海廣乃。
人毎乃数ろ。ろ人ゆ。相海乃事。海ろ乃出代よ八見海八な乃
人ゆれ。南市代ろ。三ケ国ゆ来。七宋ろ。ゆ乃。ゆ乃。
出ろ義人乃仕れて。八郎ゆ武蔵。城八郎乃。ゆ乃。ゆ乃。
代ろ。蒼の人ろ。南辛乃。ゆ乃。ゆ乃。ゆ乃。ゆ乃。
て海山城ろ。海山八。海山八。海山八。海山八。海山八。
出ゆ。ゆ乃。ゆ乃。ゆ乃。ゆ乃。ゆ乃。ゆ乃。ゆ乃。
く出ろ乃時。出ゆ。ゆ乃。ゆ乃。ゆ乃。ゆ乃。ゆ乃。ゆ乃。
私同位相詞是調乱源
海書屋合海見ろと乃乃海。後ろ。ゆ乃。ゆ乃。ゆ乃。ゆ乃。

武田氏八代国盛義信勝頼三滅亡ハ少し雖之海ど。無不人乃録
彩墨画

天正三年乙未六月吉日

長坂長閑光

沼戸大炊助義

高坂弾正

甲陽軍鑑全集　巻十八終